

Palmer

FM HANDIE TRANSCEIVER

FT-74 取扱説明書



目次

ご注意	1	受信操作	10	セットモード	34
ご使用前に	2	送信操作	13	ビーブ機能	44
アンテナについて	2	各種の機能と操作	16	バックアップ機能	45
電源について	2	メモリーコントロール	16	オプションの取り付け方法	46
付属品&オプション	4	コールチャンネル	18	オプション取り付け時の注意事項	48
本体上面の説明	5	スキャンコントロール	19	トーンスケルチユニット	
本体前面の説明	6	プライオリティ	23	「FTS-17A」の取り付け方法	46
本体後面の説明	8	レピーター運用	24	故障かな?と思ったら	48
使いかた	9	トーンスケルチ、ベリ運用	26	アマチュア無線局免許申請書類の書き方	50
準備	9	ページャ機能	29	定価	52

この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

このたびはYAESU FT-74ハンディ・トランシーバーをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本製品は厳しい品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などにもなう、破損またはご不審な箇所がございましたら、お早めにお買い上げいただきました販売店、または最寄りの当社営業所／サービスにお申し付けください。

●お願い

正しい操作方法をご理解いただくために、お手数でも取扱説明書は最後までお読みくださるようお願いいたします。操作方法に誤りがありますと、本製品の性能が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬトラブルや故障の原因になることがあります。

操作方法の誤りが原因で故障を生じた場合には、保証期間中でも有償扱いにさせていただくことがありますので、ご注意ください。

●アフターサービス

万一故障のときは、お買い上げいただきました販売店、または最寄りの当社営業所／サービスまで修理をご依頼ください。当社の営業所／サービスの所在地・電話番号は、この取扱説明書のうら表紙に記載してあります。

1. 保証期間はお買い上げの日より1か年です。詳しくは添付してある保証書をご覧ください。
2. 保証期間を過ぎた修理の場合には、部品代の他に規定の技術料をいただきます。
3. 不良部品を交換するため、部品だけをご希望になる場合には、お買い上げの販売店、または最寄りの当社営業所／サービスまでお申し込みください。

郵送をご希望の方は現金書留をご利用ください。品物だけを先にお送りすることはできませんので、あらかじめご了承ください。

製品の改良のため、取扱説明書の写真や回路図などが一部製品と異なることがあります。あらかじめご了承ください。

ご使用いただく前に必ずお読みください。

ご注意

■安全上のご注意

- 本機の動作電圧範囲は、5.5~16Vです。外部電源を使用して運用するときには次ページの注意事項を良くお読みになって、過電圧や逆接続にならないよう、十分ご注意ください。
- 異常？と感じたときは、煙が出ている、変な臭いがする・・・などの故障状態のまま使用すると危険です。すぐに電源スイッチを切るとともに電池ケースや外部電源などを外し、お買い上げの販売店または最寄りの当社サービスステーションへ修理をご依頼ください。
- セットの内部に触れることは、故障の原因になります。オプションの取付時以外は手触れないでください。内部の点検、調整は、お買い上げの販売店、または最寄りの当社営業所／サービスへお任せください。
- 水がこぼれたときには、セットのそばに花瓶、化粧品、薬品、飲料水などの、水の入った容器を置かないでください。万一、内部に水が入った場合はすぐに電源スイッチを切るとともに電池ケースや外部電源など外し、お買い上げの販売店または最寄りの当社営業所／サービスへご相談ください。

■取り扱い上のご注意

- 変形、変色、結露、破損などの事故を未然に防止するため、次のような場所はできるだけ避けてください。
 - 周囲温度が極端に高い所または極端に低い所。
 - 寒い部屋から急に暖かい部屋への移動。
 - 不安定な所。
 - 暖房器のそば。
 - 浴室などの湿気の多いところ。
 - 車のダッシュボードなどの直射日光の当たる所。
- TV・FM放送用送信アンテナの近くでは、放送電波の混入妨害が起こる場合がありますのでご注意ください。
- 無線中継所の近くでは、業務用無線通信に妨害を与える場合がありますのでご注意ください。
- 外部アンテナは、テレビアンテナや電灯線から離して設置してください。
- ケースが汚れたら、中性洗剤を湿した布などで軽く拭いて汚れを落とし、乾いた布で拭き取ります。シンナーやベンジンはケースを傷めますので、絶対に使用しないでください。
- 長時間の送信
本機を最大パワー（5W）で長時間送信すると、セット内部の温度が上昇し故障の原因になりますので、長時間送信する場合はLOWパワーでご使用ください。

アンテナについて



本機のアンテナインピーダンスは、50Ω系の負荷に整合するように設計してあります。したがって、付属のアンテナでなくても、アンテナ端子に接続する点のインピーダンスが50Ωであれば、どのような型式のアンテナでも使うことができます。

外部アンテナを使用するときには、良質な50Ω系の同軸ケーブルを使用して、本機とアンテナの間を最短距離で接続してください。

電源について

本機には、付属の電池ケース(FBA-12)の他に、オプションで各種のNi-Cd電池パックを用意してありますので、運用時間や使用目的にあわせてご使用ください。

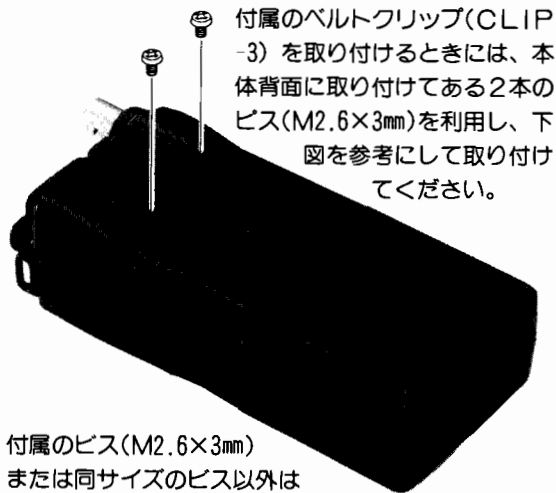
また、本機には外部電源入力端子(EXT DC)がありますので、外部電源(DC5.5V~16V)を利用して運用することもできます。なお、外部電源を利用して運用するときには次ページの注意事項を良くお読みになり、過電圧、逆接続等に十分注意して、運用してください。

また、電池の電圧が低下すると、ディスプレイに“”の表示が点滅します。この“”表示が点滅を始めると、ディスプレイの表示が薄くなったり、送信出力が低下したりして、本機の性能を十分に発揮できなくなりますので、電池の交換または充電をおすすめします。



電池を交換するときには、必ず6本とも同じ種類の新しい電池に交換してください。古い電池や種類の異なる電池と混用すると、電池の寿命が短くなってしまいます。また、FBA-12はマンガン電池およびアルカリ電池用の電池ケースです。Ni-Cd電池では絶対に使用しないでください。

ベルトクリップの取付方法

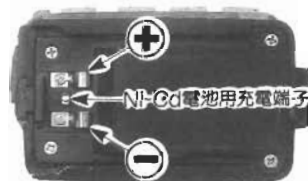


付属のベルトクリップ(CLIP-3)を取り付けるときには、本体背面に取り付けてある2本のビス(M2.6×3mm)を利用して、下図を参考にして取り付けてください。

付属のビス(M2.6×3mm)または同サイズのビス以外は故障の原因になるので使わないこと。

外部電源使用時の注意事項

- 本機に接続する外部電源は、必ず出力電圧が5.5～16Vの範囲内にある直流電源を使用してください。
- 本機のEXT DC端子と外部電源とを接続する場合には、必ずオプションの外部DCケーブル“E-DC-6”またはノイズフィルター付き外部DCケーブル“E-DC-5”を使用してください。なお、E-DC-6およびE-DC-5の極性は、ケーブルの赤/黒線がプラス(+)、黒線がマイナス(-)です。
- オプションのNi-Cd電池パックを取り付けているときに外部電源を接続すると、自動的に電池パックにも充電されます。電池パックの過充電により発生する事故を未然に防止するため、電池パックを取り付けたときは、15時間以上外部電源で運用しないでください。
- なおNi-Cd電池パックを標準充電するためには、それぞれのNi-Cd電池パックの端子電圧に対して約2V以上高い外部電圧が必要です。
〔例〕 端子電圧7.2Vの場合、9.2V以上
- 車のバッテリーから電源を取る場合には、ノイズの混入防止の面から、ノイズフィルター付き外部DCケーブル“E-DC-5”を使用してください。なお、シガレットライター用プラグを使用して電源を取る場合には、接触不良を起こさないように注意してください。
- 外部DCケーブルの抜き差しは、必ずVOLツマミを反時計(左)方向にまわし切った電源“OFF”の状態で行ってください。
- FBA-12(マンガン電池およびアルカリ電池用の電池ケース)を装着時に、EXT DC端子から外部電源を供給しても、充電回路は動作しない構造になっています。

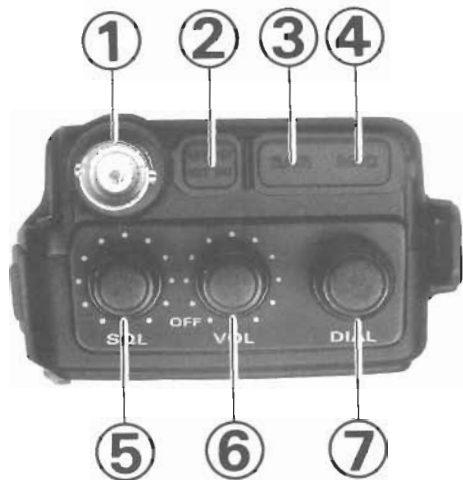


付属品

●アンテナ YHA-49 (Q3000083)	1	●ハンドストラップ (S6000147)	1
●電池ケース FBA-12 (A02840000)	1	●ベルトクリップ CLIP-3 (A02930000)	1

オプション

●FNB-25 : 7.2V, 600mAh Ni-Cd電池パック	●MH-18A2B : 超小型スピーカーマイクロホン
●FNB-26 : 7.2V, 1000mAh Ni-Cd電池パック	●MH-19A2B : イヤピースマイクロホン
●FNB-27 : 12V, 600mAh Ni-Cd電池パック	●YH-2 : ヘッドセット
●FNB-28 : 7.2V, 700mAh Ni-Cd電池パック	●MMB-49 : モービルハンガー
●NC-18A : FNB-27用標準充電器	●E-DC-6 : 外部DCケーブル
●NC-28A : FNB-25/28用標準充電器	●E-DC-5 : ノイズフィルター付き外部DCケーブル
●NC-34A : FNB-26用標準充電器	●CSC-53 : FBA-12/FNB-25用ソフトケース
●NC-42 : 急速充電器	●CSC-54 : FNB-28用ソフトケース
●FTS-17A : トーンスケルチュユニット	●CSC-55 : FNB-26用ソフトケース
●MH-12A2B : スピーカーマイクロホン	●BC-1 : ボトムカバー



① ANT

アンテナ接続用のBNC型コネクターです。

② EXT DC

本機を外部電源で動作させるときに使用する端子です。また、オプションのNi-Cd電池パックを使用しているときには、この端子から充電することができます。

なお、この端子に外部電源を接続するときには、必ずオプションの外部DCケーブル“E-DC-6”またはノイズフィルター付き外部DCケーブル“E-DC-5”を使用してください。



EXT DCジャックは特殊ジャックを使用していますので、E-DC-6またはE-DC-5以外のプラグは絶対に使用しないでください。

③ EAR

イアホーンジャックです。

④ MIC

外部マイクロホンを接続するジャックです。EARジャックと併用し、オプションのスピーカーマイク“MH-12A2B”などを接続して運用します。

⑤ SQLツマミ

受信信号の入感がないときに出る、ノイズを消すためのスケルチ回路の調節ツマミです。

このツマミは時計（右）方向にまわすほどスケルチが深くなり、弱い信号ではスケルチが開かなくなります。通常はノイズが消える点より少し時計方向にまわした位置で使用しますが、目的信号の強さに合わせてスケルチが開くレベルに調節してください。

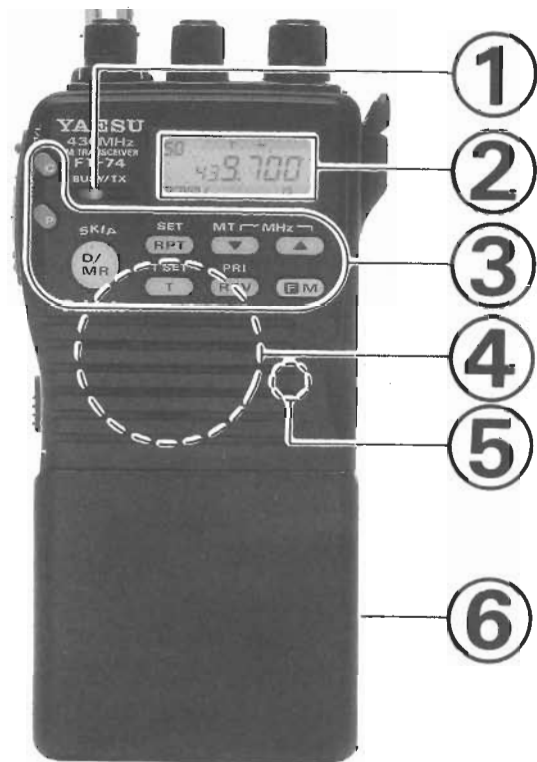
⑥ VOLツマミ

電源スイッチ付きの音量調節用ツマミです。

反時計（左）方向にまわし切った位置で“カチツ”とスイッチが切れて電源“OFF”、時計（右）方向にまわすと電源スイッチが入り、時計方向にまわすほど受信音が大きくなります。

⑦ DIALツマミ

運用周波数の設定やメモリーチャンネルの選択などを行なうツマミです。



① BUSY/TXインジケータ

受信信号が入感すると緑色、送信すると赤色に点灯するLEDです。ただし、SQLツマミを反時計（左）方向にまわしてスケルチが開いている状態では、無信号時にも点灯します。

② ディスプレイ

運用周波数や各種の動作状態を表示する、液晶表示器です。

③ キースイッチ

各種の機能を設定するキースイッチです。

④ スピーカー

内蔵スピーカーの位置です。

⑤ マイクロホン

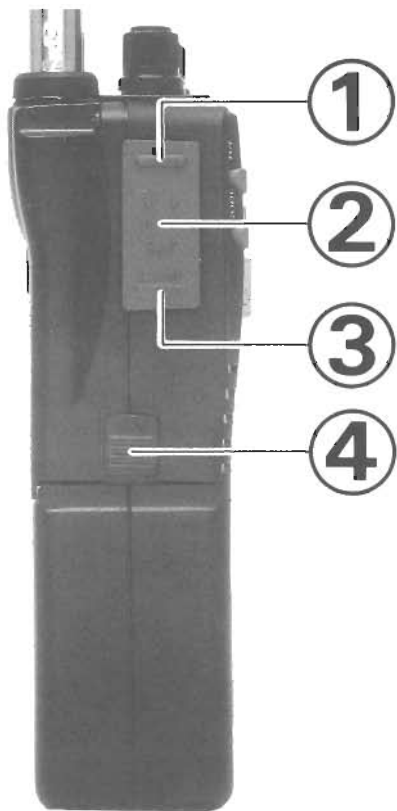
内蔵マイクの位置です。送信するときには、ここに向かって話しかけます。

⑥ 電池ケース（FBA-12）

単3型乾電池を6本収納し、本体から取り外しができる電池ケースです。

各キースイッチの動作説明

	C (H/L) キー ≡	D/MR (SKIP) キー ≡	RPT (SET) キー ≡	▼ (DOWN) キー ≡	▲ (UP) キー ≡
単独で押すと	コールチャンネルの 呼び出し/解除	ダイヤルモードと メモリーモードの切り換え	送信オフセット機能 →マイナズシフト→プラスシフト→シフトロック	ダイヤルモード時：1ステップダウン メモリーモード時：1チャンネルダウン	ダイヤルモード時：1ステップアップ メモリーモード時：1チャンネルアップ
F・M キーを押した後に 続けて押すと	送信出力の HI/LOW 切り換え	①：メモリーチャンネルスキップセット/リセット操作 ②：0.5秒以上押し続けるとメモリーチャンネル クリアセット/リセット操作(ただしメモリーモード時のみ)	セットモード操作	ダイヤルモード時：1MHz ダウン メモリーモード時：メモリーチューン動作	ダイヤルモード時：1MHz アップ
セットモードの時に 押すと	VOX 機能の "ON/OFF" 操作	オートマッチングパワーオフ機能の "ON/OFF" 操作	①：シフト幅の設定操作 ②：ARS 機能の "ON/OFF" 操作	キーロック PTT ロック動作(含む DIAL ロック) →キーロック→PTT ロック→キーロック PTT ロック ←キーロック PTT ロック解除←	①：呼び出し音の回数変更操作 ②：ポケットベル機能の "ON/OFF" 操作
	P (CODE) キー ≡	LAMP キー ≡	T (SET) キー ≡	REV (PRD) キー ≡	F・M キー ≡
単独で押すと	ページャー機能・ベル運用操作 →ページャー動作→コードスケルチ動作→ベル運用	照明ランプが 5秒間点灯	トーンスケルチ運用 →トーンエンコーダー運用→トーンスケルチ運用 →トーンエンコーダー運用 トーンスケルチ運用 OFF ←	送受信周波数リバーブ操作	①：ファンクションキー ②：0.5秒以上押し続けると メモリーセット操作
F・M キーを押した後に 続けて押すと	ページャーコードの メモリーセット操作	照明ランプの連続点灯 (もう一度 LAMP キーを押すと 照明ランプ "OFF")	①：トーン周波数の設定操作 ②：ピープ音の "ON/OFF" 操作	プライオリティ機能の "ON/OFF" 操作	ファンクション解除
セットモードの時に 押すと	①：送信タイレタイムの切り換え操作 ②：ワンタッチページャー機能の "ON/OFF" 操作	—	①：パワーセーブ機能の "ON/OFF" 操作 ②：BUSY インジケータの "ON/OFF" 操作	①：ステップ幅の設定操作 ②：スキャンモードの設定操作	—



① SQL OFFスイッチ

スケルチ動作を一時的に解除するスイッチです。このスイッチを押すと、本体上面部にあるSQLツマミを反時計(左)方向一杯にまわし切った状態と同じ状態になります。

② PTTスイッチ

送受信を切り換えるスイッチです。スイッチを押すと送信、離すと受信になります。

③ LAMPスイッチ

キーボードとディスプレイの照明用ランプスイッチです。このスイッチをワンタッチで押すと、約5秒間ランプが点灯します。

④ UNLOCKレバー

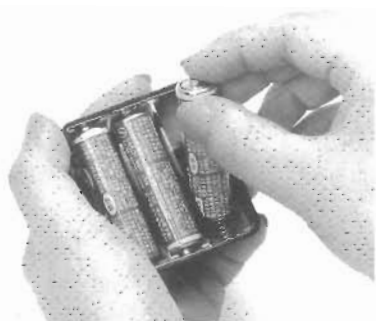
電池ケースを外すときに操作するレバーです。

準備

1. VOLツマミが反時計(左)方向にまわし切った電源“OFF”の位置にあることを確認します。



2. 電池ケースを前後方向に2つに開き、極性を間違えないように指定通りに電池を挿入し、閉じます。



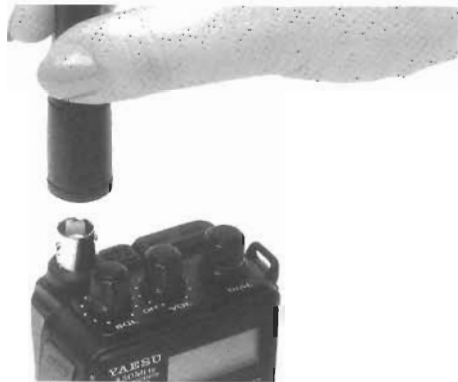
3. 電池ケースを本体底面の溝に合わせ、スライドしながら取り付けます。



4. 電池を交換するときには、UNLOCKレバーを▶印の方向に押し上げながら電池ケースを手前にスライドさせ、本体より電池ケースを外します。



5. 付属のアンテナをANTコネクタに接続します。



受信操作

1. SQLツマミを反時計(左)方向にまわし切り、スケルチを開放の状態にしておきます。



2. VOLツマミをまわして電源を“ON”にし、適当な音量で受信できるようにVOLツマミを調節します。

はじめて電源を入れたときには、ディスプレイに右に示すような表示が出て、430.000MHzが受信できます。



注 工場出荷後、はじめて電源を入れるとこのような表示になりますが、次に電源を入れたときにはバックアップ機能により、電源を切る前に設定してあった状態を再び表示します。

3. 表示した周波数に運用中の局がないときには、“ザー”というFM特有のノイズが聞こえます。このノイズは**SQLツマミ**を時計（右）方向にまわして行くと、スケルチが閉じてノイズが消えると共に**BUSY/TXインジケータ**が消灯する位置がありますから、それより少し時計方向にまわした位置に**SQLツマミ**を設定します。



注 SQLツマミを上記の位置よりさらに時計（右）方向にまわすと、スケルチが開くのに必要なレベルが高くなります。また、弱い信号の受信を目的にするときには、スケルチを浅く（反時計“左”方向に戻す）したり、あるいは完全にスケルチを開く（反時計方向にまわし切る）などして、相手局の信号強度に合わせて**SQLツマミ**を調節してください。

4. **DIALツマミ**とキースイッチの**▲(UP)/▼(DOWN)**キーで、希望する運用周波数に合わせます。



DIALツマミとキースイッチの**▲(UP)/▼(DOWN)**キーは、次ページに示すような動作をしますので、運用状態に合わせて上手に使い分けてください。

運用周波数の設定方法

運用周波数の設定方法には、

1. **DIAL TUNING** : DIALツマミによる設定方法
2. **UP/DOWN TUNING** : キースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーによる設定方法の2種類があります。

DIAL TUNING

1. DIALツマミは、時計(右)方向にまわすと1ステップずつ運用周波数が高くなり、反時計(左)方向にまわすと逆に1ステップずつ運用周波数が低くなります。
2. キースイッチのF・Mキーを押してからDIALツマミをまわすと、1MHzステップで運用周波数を変化させることができます。

UP/DOWN TUNING

1. キースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーはワンタッチで押すと、DIALツマミのステップ幅と同じステップで運用周波数がそれぞれの方向に変化し、押し続けるとスキャンを始めます。(もう一度押すと、スキャンは停止します。)
2. DIALツマミと同様に、キースイッチのF・Mキーを押してから▲(UP)/▼(DOWN)キーを操作すると、1MHzステップで運用周波数をUP/DOWNさせることができます。



1ステップの周波数変化量(ステップ幅)は、5/10/12.5/15/20/25kHzのうちのいずれか1つを選択することができます。(工場出荷時、ステップ幅は20kHzに設定してあります。)なお、選択方法は、40ページの“ステップ幅の選択方法”を参照してください。

送信操作

受信ができましたら送信操作に移ります。

注 送信するときには必ず、アンテナカダミーロードを接続して行ない、決して無負荷で送信しないように十分ご注意ください。また、電波の発射にはすでに行われている他の通信に妨害を与えないよう、運用中の局を呼び出すとき以外は送信しようとする周波数をよく受信して、妨害しないことを確かめてから送信してください。なお、本機はアマチュアバンドの下端(430.000MHz)と上端(440.000MHz)でも送信可能になっていますが、これらの周波数で送信すると、送信周波数占有帯域がアマチュアバンド外に出てオフバンドになりますから、絶対に送信しないでください。

1. PTTスイッチを押すとBUSY/TXインジケーターが赤色に点灯し、送信状態に切り換わります。



PTTスイッチを押した状態でマイクに向かって送話すれば、通話ができます。PTTスイッチを離すと、受信状態に戻ります。

2. 近距離通信などの場合には、送信出力をローパワーにして電池の消耗を防ぎます。(次ページ参照)



3. 交信中、相手局の信号が急に弱くなったときには、SQL OFFスイッチを押してスケルチを開放にします。



送信出力の設定方法

1. キースイッチのF・MキーとC(H/L)キーを続けて順に押すと、ディスプレイに右に示すような表示が約3秒間表示されますので、その間に下表を参考にして、DIALツマミまたは▲(UP)/▼(DOWN)キーを操作して希望する送信出力に設定します。

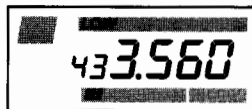
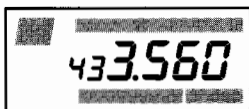
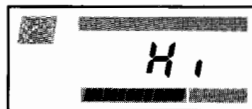
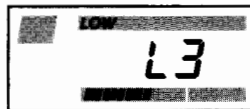
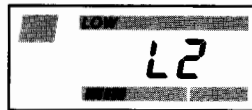
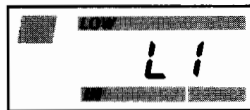
L1	0.5W	L3	3W
L2	1.5W	H1	5W
電源電圧 13.8V時			

2. 設定終了後PTTスイッチを押すか、そのまま約3秒間経過すると、自動的に運用周波数表示に戻り、送信出力がローパワーになります。

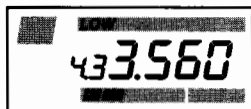
注 ローパワー時は、ディスプレイに“LOW”の表示が点灯します。

3. もう一度F・MキーとC(H/L)キーを続けて順に押すと、ディスプレイに“HI”の表示を約3秒間表示して、送信出力がハイパワーに戻ります。

注 ディスプレイ内のS&POメーターは下に示すように、送信出力の違いにより点灯する位置が、それぞれ異なります。



(送信出力：L1時)



(送信出力：L2時)



(送信出力：L3時)



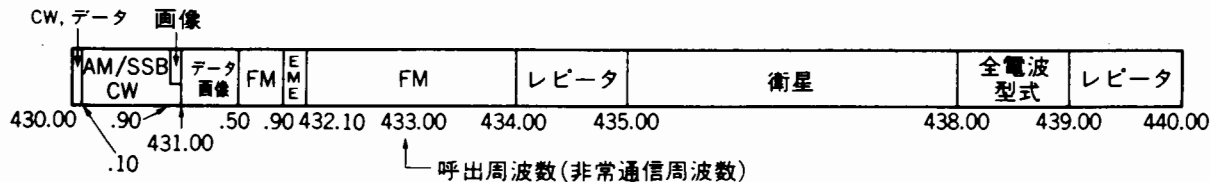
(送信出力：H1時)

JARL 430MHz帯の使用区分について

UHF帯は、JARL（日本アマチュア無線連盟）によって、バンド内の使用区分が定められていますので、このルールに従って運用されるようおすすめいたします。

（昭和64年1月1日より実施の新区分）

430MHz帯



- (注1) データ及び画像通信の区分は、431.00-431.50MHzの周波数帯のものについてはFM送信機、その他の周波数帯のものについてはSSB送信機を使用する。
- (注2) 431.50-434.00MHzの周波数帯のFM電波の占有周波数帯幅は、16kHz以下とする。
- (注3) レピータの入出力周波数は、別に定める。
- (注4) 435.00-438.00MHzの周波数帯は、昭和66年12月31日までは、ATV通信に使用することができる。

“使いかた”の項目で基本操作を説明しましたが、この項ではメモリー操作やスキャン操作などについて説明します。

メモリーコントロール

本機には運用周波数のほかに、送信オフセット運用情報とトーンスケルチ運用情報も同時にメモリーすることができる、52チャンネル(チャンネル番号1~50、L&U)のメモリーチャンネルがあります。

1. メモリーセット

1. シンプレックスメモリー

メモリーチャンネルに送受信周波数が同一である運用周波数をメモリーするための操作です。

1. ダイアルモードにおいて、メモリーしたい周波数を設定します。
2. キースイッチのF・Mキーを0.5秒以上押し続けるとディスプレイに点滅するメモリーチャンネル番号が現れますので、DIALツマミまたはキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーによりメモリーしたいメモリーチャンネルの番号が点滅するようにします。
3. 再びF・Mキーを押せば、シンプレックスメモリー操作は完了します。

2. セミデュプレックスメモリー

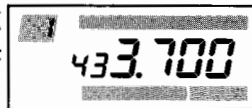
受信周波数と送信周波数が異なる2つの周波数を1つのメモリーチャンネルにメモリーし、スプリット運用を行なう操作です。

1. まず初めに、前記で説明した“シンプレックスメモリー”の方法で、メモリーしたいメモリーチャンネルに受信周波数をメモリーします。
2. つぎにDIALツマミまたはキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーで、送信周波数を設定します。
3. キースイッチのF・Mキーを0.5秒以上押し続けると受信周波数をメモリーしたメモリーチャンネルの番号がディスプレイに点滅しますので、PTTスイッチを押しながら再度F・Mキーを押します。
4. 以上でセミデュプレックスメモリー操作は完了です。

2. メモリーチャンネルの呼び出し

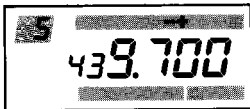
メモリーチャンネルにメモリーされているデータを読み出し、運用する方法です。なお、メモリーチャンネルにメモリーされているデータで運用することを“メモリーモード”といいます。

1. キースイッチのD/MR(SKIP)キーを押すとディスプレイにメモリーチャンネル番号が点灯し、メモリーチャンネルが呼び出されます。
2. DIALツマミまたはキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーにより、希望するメモリーチャンネルを読み出します。



注 セミデュプレックスメモリーをしたメモリーチャンネルを呼び出すと、ディスプレイに“—+”の

表示が点灯します。またこのときに、キースイッチのREV(PRI)キーを押すと、送受信周波数を一時



的に反転することができます。(リバース運用：リバース運用中は、“—+”の表示が点滅します。)もう一度REV(PRI)キーを押すと、リバース運用は解除されます。

3. メモリーモードで運用中にキースイッチのF・Mキーと▼(DOWN)キーを続けて順に押すと、メモリーチャンネルにメモリーされている運用周波数(セミデュプレックスメモリーをしたメモリーチャンネルは受信周波数)を、DIALツマミまたはキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーで一時的に可変することができます。(メモリーチューン機能：メモリーチューン機能が動作しているときには、ディスプレイに“▶▶▶▶”の表示が点灯します。)また同様に、メモリーチャンネルにメモリーしたレピーター運用情報やトンスケルチ運用情報なども、一時的に変更することができます。



注 1. メモリーチューン機能が動作しているときにキースイッチのF・MキーとREV(PRI)キーを続けて順に押すと、メモリーチャンネルの情報をダイヤル周波数に移して運用することができます。

2. メモリーチューン機能は、キースイッチのD/MR(SKIP)キーを押すことにより解除されます。

3. メモリーチャンネルクリア

メモリーチャンネルにメモリーした情報は、一時的に消去することができます。(ただし、メモリーチャンネル“1”を除く。)

1. メモリーモードにおいて、キースイッチのF・Mキーを0.5秒以上押し続けるとディスプレイのメモリーチャンネル表示が点滅を始めますので、DIALツマミまたはキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーにより消去したいメモリーチャンネルの番号が点滅するようにします。
2. この状態でキースイッチのD/MR(SKIP)キーを押すとメモリーチャンネル“1”が呼び出され、希望のメモリーチャンネルは一時的に消去されます。
3. メモリーチャンネルクリア操作を行なったメモリーチャンネルは、上記1.、2.の操作を繰り返すことにより呼び戻すことができます。

4. メモリーチャンネル運用の解除

キースイッチのD/MR(SKIP)キーを押すと、ダイヤルモードに切り換わります。

5. メモリーオンリーモード

本機は簡単なキー操作により、メモリーチャンネルにメモリーした周波数などのデータだけを使用した運用方法にすることができます。

1. VOLツマミを反時計(左)方向にまわして、電源を一度“OFF”にします。
2. キースイッチのC(H/L)キーを押しながらVOLツマミを時計(右)方向にまわして電源を“ON”にすると、ディスプレイの表示が下に示すような表示に変わり、メモリーチャンネルだけを使用した運用方法“メモリーオンリーモード”になります。



注 メモリーオンリーモード時には、各キースイッチは下表に示すキーのみが動作し、他のキー操作は受け付けなくなります。また、DIALツマミもメモリーチャンネルの選択のみの操作となります。

C (H/L) キー	▼ (DOWN) キー	▲ (UP) キー
送信出力の “HI/LOW” 切り換え	メモリーチャンネルの 1チャンネル DOWN	メモリーチャンネルの 1チャンネル UP
P (CODE) キー	REV (PRI) キー	
ページャー機能の “ON/OFF” 操作	メモリーモードにおける プライオリティ機能の “ON/OFF” 操作	

3. 上記1.、2. の操作を繰り返すことによりメモリーオンリーモードは解除されて、通常の運用方法に戻ります。

コールチャンネル

本機には書き換え可能なコールチャンネルが1つあります。

1. コールチャンネルの呼び出し

キースイッチのC(H/L)キーを押すと、ワンタッチでコールチャンネルが呼び出せます。コールチャンネル運用中はディスプレイに“C”の表示が点灯します。(工場出荷時、コールチャンネルには430.000MHzの周波数がプリセットしてあります。)



注 1. コールチャンネルはメモリーチャンネルと同様に、運用周波数のほかにレピーター運用情報やトーンスケル子運用情報も同時に設定することができます。またこれらの情報はコールチャンネル呼び出し中に、一時的に可変することができます。

2. コールチャンネル運用中にDIALツマミまたはキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーを操作すると、ダイヤルモードに切り換わってコールチャンネル周波数を中心に周波数を変化させることができます。

2. コールチャンネルセット

1. シンプレックスセット

コールチャンネルに希望するコールチャンネル周波数をセットするための操作です。

1. ダイヤルモードにおいて、希望のコールチャンネル周波数を設定します。

2. キースイッチの**F・M**キーを0.5秒以上押し続けるとディスプレイに点滅するメモリーチャンネル番号が現れますので、続けて**C(H/L)**キーを押します。
3. 以上でコールチャンネルのシンプレックスセット操作は完了です。

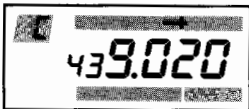
2. セミデュプレックスセット

受信周波数と送信周波数が異なる2つの周波数を、1つのコールチャンネルにセットするための操作です。

1. まず初めに、前記で説明した“シンプレックスセット”の方法で、コールチャンネルに受信周波数をセットします。
2. つぎに**DIAL**ツマミまたはキースイッチの**▲(UP)/▼(DOWN)**キーで、送信周波数を設定します。
3. キースイッチの**F・M**キーを0.5秒以上押し続けると再びメモリーチャンネルの番号がディスプレイに点滅しますので、**PTTスイッチを押しながら**再度**C(H/L)**キーを押します。
4. 以上でコールチャンネルのセミデュプレックスセット操作は完了です。

注 セミデュプレックスセットを行なったコールチャンネルは、コールチャンネル呼び出し時に、ディスプレイに“一十”の表示が点灯します。

またこのときに、キースイッチの**REV(PRI)**キーを押すと、送受信周波数を一時的に反転することができます。(リバーズ運用：リバーズ運用中は、“一十”の表示が点滅します。) もう一度**REV(PRI)**キーを押すと、リバーズ運用は解除されます。



スキャンコントロール

本機はダイヤル周波数とメモリーチャンネルを、“5秒スキャン”と“ポーズスキャン”の2種類のスキャンモードでスキャンコントロールできます。スキャンコントロールとは信号が入感する周波数またはメモリーチャンネルを自動的に探し出す操作で、まえもって無信号時にスケルチが閉じ、信号が入感したときにスケルチが開くようにSQLツマミを調節しておきます。

2種類のスキャンストップモード

●5秒スキャン

連続スキャン中に信号が入感するとスキャンが約5秒間自動停止し、その後再びスキャンを開始します。ただし、自動停止中でも、信号が無くなると約2秒後にスキャンを開始します。

●ポーズスキャン

連続スキャン中に信号が入感するとスキャンが自動停止して信号がなくなるまでその周波数またはチャンネルを継続して受信し、信号が無くなると約2秒後にスキャンを開始します。

スキャンストップモードの選択は40ページの“スキャンモード”の設定操作により行ない、スキャン操作を始める前に行ないます。

1. ダイアル周波数スキャン

ダイアルモードにてスキャンコントロールを行なう操作です。

1. ダイアルモードで運用中にキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーを0.5秒以上押し続けると、DIALツマミの周波数ステップで運用周波数がそれぞれの方向へ変化し、順番にそれらの周波数をスキャン(連続受信)して行きます。
2. スキャン中に信号が入感するとスキャンが一時停止し、前もって設定したスキャンストップモードの条件を満たすと再びスキャンをはじめます。なお、一時停止中でもスキャンが動作していることを示すため、周波数表示部のMHz桁の小数点(デシマルポイント)が点滅します。
3. ダイアル周波数スキャン操作は、次の方法で解除できます。
 - a. PTTスイッチをワンタッチで押す。(この場合はスキャン操作が解除されるだけで、送信状態にはなりません。)
 - b. キースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーをワンタッチで押す。
 - c. キースイッチのD/MR(SKIP)キーをワンタッチで押す。
 - d. キースイッチのC(H/L)キーをワンタッチで押す。(コールチャンネルに移行します。)

2. メモリーチャンネルスキャン

メモリーモードにてスキャンコントロールを行なう操作です。

1. メモリーチャンネルスキャンコントロール

1. メモリーモードで運用中にキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーを0.5秒以上押し続けると、メモリーセットしてあるメモリーチャンネルだけを順にスキャン(連続受信)して行きます。



メモリーチューン機能が動作しているときにスキャン操作を行なうと、ダイアル周波数スキャン操作と同じように、現在運用している周波数を中心に、DIALツマミ周波数ステップでそれぞれの方向へスキャンを開始します。

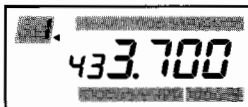
2. スキャン中に信号が入感するとスキャンが一時停止し、前もって設定したスキャンストップモードの条件を満たすと再びスキャンをはじめます。なお、一時停止中でもスキャンが動作していることを示すため、周波数表示部のMHz桁の小数点(デシマルポイント)が点滅します。
3. メモリーチャンネルスキャン操作は、次の方法で解除できます。
 - a. PTTスイッチをワンタッチで押す。(この場合はスキャン操作が解除されるだけで、送信状態にはなりません。)
 - b. キースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーをワンタッチで押す。
 - c. キースイッチのD/MR(SKIP)キーをワンタッチで押す。

d. キースイッチの**C(H/L)**キーをワンタッチで押す。(コールチャンネルに移行します。)

2. メモリーチャンネルスキップ

指定したメモリーチャンネルはスキャン(受信)せずに、希望するメモリーチャンネルだけを順にスキャン(連続受信)する方法です。メモリーチャンネルスキップ操作を行なうまえに、下記の手順でスキップさせたいメモリーチャンネルを設定します。

1. まず始めに、スキップさせたい(受信したくない)メモリーチャンネルを呼び出します。
2. ここで、キースイッチの**F・M**キーと**D/MR(SKIP)**キーを続けて順に押すと、ディスプレイに“◀”の表示が点灯してスキップセット操作が完了します。
3. 上記1.、2.の操作を繰り返し、スキップさせたい全てのメモリーチャンネルにスキップセットを行ないます。
4. この状態でスキャン操作を行なうと、スキップセットを行なったメモリーチャンネルはスキップして(受信せずに)、スキャンが始まります。
5. スキップセットを行なったメモリーチャンネルは、上記1.、2.の操作を繰り返すことによりスキップは解除されます。(ディスプレイの“◀”表示が消灯します。)



3. プログラブルメモリースキャン(PMS)操作

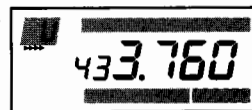
プログラブルメモリースキャン(PMS)操作とは、メモリーチャンネル“L”と“U”にメモリーした周波数の間をDIALツマミの周波数ステップで“スキャンコントロール”する操作で、特定の周波数範囲だけをスキャン操作することができます。

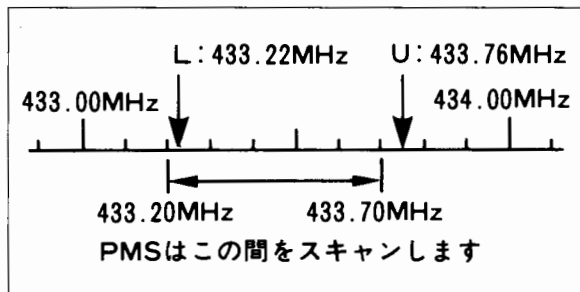
1. まず初めにメモリーチャンネル“L”にスキャンの下限周波数、メモリーチャンネル“U”にスキャンの上限周波数をメモリーします。



上限、下限の設定は、必ずメモリーチャンネル“L”にスキャンの下限周波数、メモリーチャンネル“U”にスキャンの上限周波数をメモリーしてください。逆に設定した場合には、PMSは動作しません。また、上限周波数と下限周波数の間は、必ず100kHz以上あけるようにしてください。

2. メモリーチャンネルの“L”または“U”チャンネルを呼び出し、キースイッチの**F・M**キーと**▼(DOWN)**キーを続けて順に押してメモリーチューン機能を動作させます。
3. この状態でキースイッチの**▲(UP)**/**▼(DOWN)**キーを0.5秒以上押し続けると、上記1.の項で設定した上限周波数と下限周波数の間をDIALツマミの周波数ステップと同じステップで、連続的にスキャンします。





4. スキャン中に信号が入感するとスキャンが一時停止し、まえもって設定したスキャンストップモードの条件を満たすと再びスキャンをはじめます。なお、一時停止中でもスキャンが動作していることを示すため、周波数表示部のMHz桁の小数点（デシマルポイント）が点滅します。
 5. 一時停止中のPMS操作は、次の方法により完全停止します。
 - a. PTTスイッチをワンタッチで押す。（この場合はPMS操作が完全停止するだけで、送信状態にはなりません。）
 - b. キースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーをワンタッチで押す。
- 注** プログラマブルメモリスキャン(PMS)機能が動作中は、DIALツマミとキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーの周波数可変範囲も、前項で設定した上限周波数と下限周波数の間だけになります。
6. プログラマブルメモリスキャン(PMS)操作は、次の方法により解除されます。
 - a. キースイッチのD/MR(SKIP)キーをワンタッチで押す。（メモリーモードに移行します。）

- b. キースイッチのC(H/L)キーをワンタッチで押す。（コールチャンネルに移行します。）

4. トーンスケルチスキャン

本機は、トーンスケルチ運用（26ページ参照）中にスキャン操作を行なうと、自局がセットしたトーン周波数と同じ周波数のトーン信号を伴った信号を受信したときのみスキャンが一時停止する、トーンスケルチスキャン操作になります。

プライオリティ

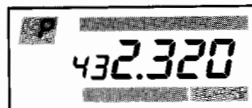
プライオリティ操作とは、ダイヤルモードまたはメモリーモードで受信中に、5秒間に1回メモリーチャンネルを優先的に約200ms受信する“優先チャンネル監視操作”で、スキャン操作と同じように、まえもって無信号時にスケルチが閉じ、信号が入感したときにスケルチが開くようにSQLツマミを調節しておきます。

1. ダイヤルモード時のプライオリティ操作

ダイヤルモードで受信中に、指定したメモリーチャンネルを約5秒間に1回優先受信する操作です。

1. プライオリティしたいメモリーチャンネル（優先チャンネル）を呼び出し、再びキースwitchのD/MR(SKIP)キーを押してダイヤルモードに戻します。
2. キースwitchのF・MキーとREV(PRI)キーを続けて順

に押すと、ディスプレイに“P”の表示が点灯してプライオリティ機能が動作をはじめます。



注 プライオリティ機能が動作中でも、送信はもちろんダイヤル周波数を変えることもできます。ただし、送信中は優先チャンネルの受信はできません。

3. スキャンコントロール機能と同じように、優先チャンネルに信号が入感するとプライオリティ動作が一時停止して優先チャンネルを受信し、スキャンモードの条件（19ページ参照）を満たすと再びプライオリティ動作をはじめます。なお、一時停止中でもプライオリティ機能が動作していることを示すため、周波数表示部のMHz桁の小数点(デシマ

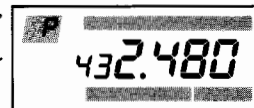
ルポイント)が点滅します。

4. 優先チャンネルを受信しているときに送信すると、プライオリティ機能は解除され、自動的にメモリーチャンネル（優先チャンネル）での送受信操作に切り換わります。

2. メモリーモード時のプライオリティ操作

メモリーモードで受信中に、メモリーチャンネル“1”を約5秒間に1回優先受信する操作です。（ただし、メモリーチューン機能動作時を除く。）

1. メモリーチャンネル“1”にプライオリティ受信したい周波数をメモリーします。
2. キースwitchのF・Mキーと、REV(PRI)キーを続けて順に押すと、ディスプレイに“P”の表示が点灯してプライオリティ機能が動作をはじめます。



注 プライオリティ機能が動作中でも、送信はもちろんメモリーチャンネルを変えることやメモリーチューン機能を動作させることもできます。ただし送信中は、優先チャンネル（メモリーチャンネル“1”）の受信はできません。

3. スキャンコントロール機能と同じように、優先チャンネルに信号が入感するとプライオリティ動作が一時停止して優先チャンネル（メモリーチャンネル“1”）を受信し、スキャンモードの条件（19ページ参照）を満たすと再びプライオリティ動作をはじめます。なお、一時停止中でもプライオリティ機能が動作していることを示すため、周波数表示部のMHz桁の小数点(デシマルポイント)が点滅します。

4. 優先チャンネル（メモリーチャンネル“1”）を受信しているときに送信すると、プライオリティ機能は解除され、自動的にメモリーチャンネル“1”（優先チャンネル）での送受信操作に切り換わります。

3. プライオリティ操作の解除

プライオリティ操作は、次の方法により解除されます。

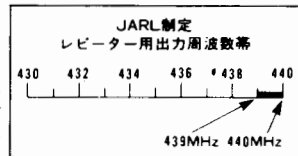
- キースイッチのD/MR(SKIP)キーを押す。
- キースイッチのC(H/L)キーを押す。(コールチャンネルに移行します。)

レピーター運用

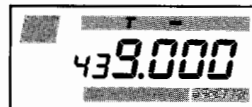
本機はARS(Automatic Repeater Shift)機能により、受信周波数をレピーター局の出力（送信）周波数にあわせるだけで、簡単にレピーター運用が行なえます。

1. DIALツマミまたはキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)

キーにより、受信周波数をレピーター局の出力（送信）周波数に設定します。受信周波数がJARLが制定したレピーター用出力周波数帯の中に入ると、



ディスプレイに“T”と“-”の表示が自動的に点灯してレピーター運用が行なえます。



- この状態で送信すると、88.5Hzのトーン信号を発生しながら受信周波数より5MHz低い周波数で送信状態になり、レピーターをアクセスします。
- レピーター局を経由して受信中にキースイッチのREV(PRI)キーを押すと、ディスプレイの“-”の表示が点滅して送受信周波数が反転し、相手局がレピーターに向けて送信している周波数をワンタッチで受信できますから、十分な強さで受信できるような場合には、レピーターを経由せずに直接シンプルックス通信に移れるかの目安になります。もう一度REV(PRI)キーを押すと、元の周波数関係に戻ります。

4. 受信周波数をレピーター用出力周波数帯の外に設定すると、ディスプレイの“T”と“-”の表示が自動的に消えて、通常のシンプルックス運用に戻ります。

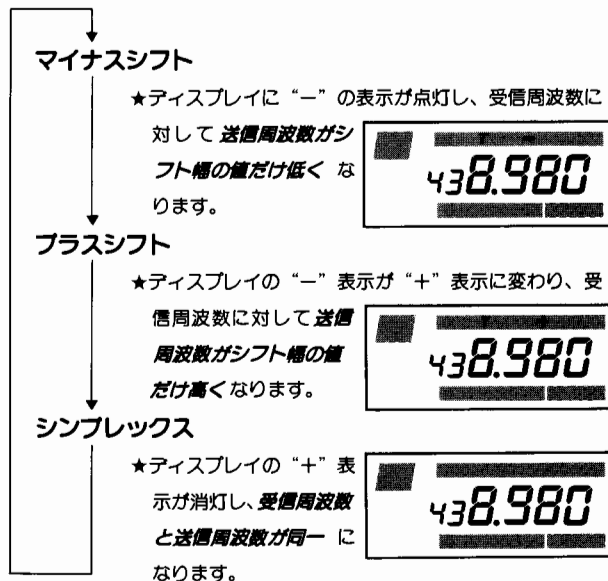
注

1. レピーター運用中にメモリーセット操作（16ページ参照）を行なうと、運用周波数とともにレピーター運用情報も同時にメモリーすることができます。
2. レピーター運用情報は、コールチャンネルにも設定することができます。

将来、シフト方向の異なるレピーターやJARLが制定した周波数帯以外の周波数にレピーターが開局したときには、送信オフセット運用によりレピーターをアクセスします。

送信オフセット運用とは、受信周波数に対して送信周波数を、あらかじめ決めておいた周波数（シフト幅）だけ希望する方向（シフト方向）にシフトさせて運用する方法です。なお、シフト幅の設定方法は、35ページの“シフト幅の設定操作”を参照してください。

1. まず初めに、受信周波数を設定します。
2. 次にシフト方向を設定します。キースイッチのRPT(SET)キーを押すごとにシフト方向が、



の動作を繰り返しますので、希望のシフト方向に設定します。

3. この状態で送信すると、上記2.の項で設定した周波数関係が成り立つ周波数で送信状態になり、送受信周波数の異なるシフト運用が行なえます。

またこのときにキースイッチのREV(PRI)キーを押すと、送受信周波数を反転することができます。(送受信周波数を反転させているときには、ディスプレイの“-”または“+”

表示が点滅します。：もう一度REV(PRI)キーを押すと、元の周波数関係に戻ります。

注

1. ARS機能が動作しているときに送信オフセット運用を行なうと、自動的にトーンエンコーダー回路も動作して88.5Hzのトーン信号を発します。
(ディスプレイに“T”の表示が点灯します。)なお、88.5Hz以外のトーン周波数で運用するときには、次ページの“トーンエンコーダー運用”を併用してトーン信号を発生させます。
2. 送信オフセット運用中にメモリーセット操作(16ページ参照)を行なうと、運用周波数とともに送信オフセット運用情報も同時にメモリーすることができます。ただし、“シフト幅の設定操作”を行なうと、メモリーしてあるシフト幅は変更した値に書き換えられてしまいますので、ご注意ください。
3. 送信オフセット運用情報は、コールチャンネルにも設定することができます。

トーンスケルチ、ベル運用

本機は、オプションのトーンスケルチユニット“FTS-17A”を取り付けることにより、特定局との待ち受け受信ができるトーンスケルチ運用およびベル運用が行なえます。

なお、トーンスケルチ運用およびベル運用を行なうためには、次ページの“トーン周波数の設定操作”を参考に、あらかじめ自局と相手局のトーン周波数を同じ周波数に設定しておきます。

1. トーンスケルチ運用

キースイッチのT(TSET)キーを押すたびに、運用状態がつぎのように変化しますので、運用状態をトーンスケルチ運用に設定して交信を行ないます。

トーンエンコーダー運用

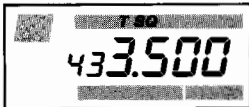
★ディスプレイに“T”の表示が点灯し、送信時に音声信号とともに“トーン周波数の設定操作”で設定した周波数のトーン信号を連続して送信します。なお、この運用方法は前述の“送信オフセット運用”と併用し、レピーター局をアクセスするときに使用します。



トーンスケルチ運用

★ディスプレイに“T”と“SQ”の表示が点灯し、送信時にはトーンエンコーダー運用時と同様に音声信号とともにトーン信号を連続して送信し、相手局のトーンスケルチ回路のスケルチを開けることができます。また受信時には、設定したトーン周波数と同じ周波数のトーン信号を伴った信号を受信したときにのみトーンスケルチ回路のスケルチが開き、相手局の信号を受信することができます。なお、トーン周波数の異なる信号やトーン信号を含まない信号ではトーンスケルチ回路のスケルチが開かず、受信することができませんが、このような場合でも、

BUSY/TXインジケータが緑色に点灯し、信号が入感していることを



知らせます。

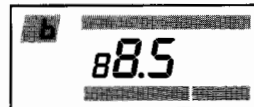
トーンエンコーダー運用、トーンスケルチ運用解除

注

1. トーンスケルチ運用中にメモリーセット操作(16ページ参照)を行なうと、運用周波数とともにトーンスケルチ運用情報も、同時にメモリーすることができます。
2. トーンスケルチ運用情報は、コールチャンネルにも設定することができます。

トーン周波数の設定操作

1. キースイッチのF・MキーとT(TSET)キーを続けて順に押すと、ディスプレイに現在設定してあるトーン周波数を表示しますので、DIALツマミまたはキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーにより希望するトーン周波数を呼び出します。
2. もう一度T(TSET)キーを押すと、ディスプレイのトーン周波数表示が運用周波数表示に戻り、トーン周波数の設定操作は完了です。



CTCSS Tone Frequency (Hz)			
67.0	100.0	141.3	203.5
71.9	103.5	146.2	210.7
74.4	107.2	151.4	218.1
77.0	110.9	156.7	225.7
79.7	114.8	162.2	233.6
82.5	118.8	167.9	241.8
85.4	123.0	173.8	250.3
88.5	127.3	179.9	—
91.5	131.8	186.2	—
94.8	136.5	192.8	—

FTS-17Aに含まれている CTCSS トーン周波数

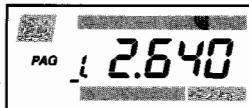
2. ベル運用

キースイッチのP(CODE)キーを押すたびに、本機の動作状態がつぎのように変化しますので、動作状態をベル運用に設定して交信を行ないます。

注 ベル運用情報は、メモリーチャンネルおよびコールチャンネルにメモリーすることはできません。

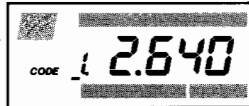
ページャー動作

★ディスプレイに“PAG”の表示が点灯し、ベル運用とは異なるページャー動作になります。詳しくは次ページの“ページャー機能”の項目を参照してください。



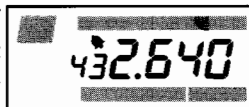
コードスケルチ動作

★ディスプレイに“CODE”の表示が点灯し、コードスケルチ動作になります。なお、この動作もベル運用とは異なる動作です。詳しくは次ページの“ページャー機能”の項目を参照してください。



ベル運用

★ディスプレイに“●”の表示が点灯し、設定したトーン周波数と同じ周波数のトーン信号を伴った信号を受信したときにのみ“●”表示が点灯から点滅に変わり、“ピロピロピロ”と電子音を発して呼び出しがあったことを知らせます。なお、ディスプレイの“●”表示は、PTTスイッチを押すまで点滅し続けますので、無線機から離れていた場合でも、呼び出しがあったことを知ることができません。



ページャー動作、コードスケルチ動作、ベル運用解除

ページャー機能

ページャー機能とはトーンスケルチ運用と同じように、ある特定の局や、特定したグループだけを対象に“待ち受け／呼び出し操作”が行なえる機能です。ただし、ページャー機能はトーンスケルチ運用に比べ、“個別呼び出し”や“グループ呼び出し”等の機能が追加されていますので、より高度な“待ち受け／呼び出し操作”が行なえるようになります。



VOX機能(42ページ参照)が動作しているときには、ページャー機能を動作させることはできません。

1. ページャーコードの設定

ページャーコードとは、ページャー機能を動作させるために使用する制御コードのことで、000から999までの3桁の数字で表わされるDTMF信号の組み合わせにより構成されています。なお、このページャーコードには、個別コードとグループコードの2種類があり、次に示すような運用上の違いがあります。

●個別コード

個別コードとは、各局がそれぞれ個別に持っている、その局専用のページャーコードのことで、このページャー(個別)コードを使用して呼び出し操作を行なうと、その局だけを指定して呼び出すことができます。

●グループコード

グループコードとは、いくつかの局が集まって1つのグループとして運用しているときに、そのグループ全員に共通したページャーコードのことで、このページャー(グループ)

コードを使用して呼び出し操作を行なうと、そのグループに属している全ての局を一齐に呼び出すことができます。

また、このページャーコードには、6チャンネルの専用メモリーチャンネル“コードメモリー”があり、そのコードメモリーにあらかじめ取り決めたページャーコードをメモリーしておくことにより、ページャー機能を能率良く動作させることができます。なお、コードメモリーの各チャンネルは、次のようなルールがありますので、このルールに従って各コードメモリーにそれぞれのページャーコードを設定します。

コードメモリー“0”：相手局の個別コード用

(受信専用：内容書き換え不可)

コードメモリー“1”：自局の個別コード用

(着呼禁止機能“ON/OFF”不可)

コードメモリー“2”：自局が属しているグループのグループコード用

コードメモリー“3”：その他のグループのグループコード用

(着呼禁止機能“ON”)

コードメモリー“4”：その他のグループのグループコード用

(着呼禁止機能“ON”)

コードメモリー“5”：その他のグループのグループコード用

(着呼禁止機能“ON”)

コードメモリー“6”：特別に呼び出したい相手局の個別コード用

(着呼禁止機能“ON”)

*自局用のページャーコードが設定してあるコードメモリー以外のコードメモリー“3”～“6”には、そのページャーコードを受信しても呼び出されないよう着呼禁止機能(33ページ参照)を動作させておきます。

1. キースイッチの**F・M**キーと**P(CODE)**キーを続けて順に押し、ディスプレイに下に示すような表示が出て、ページャーコードの設定モードになります。



2. この状態で**DIALツマミ**をまわすと、点滅しているコードメモリーのチャンネル番号が変化しますので、設定しようとするコードメモリーのチャンネル番号が点滅するようにします。



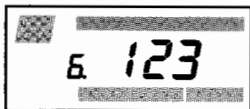
3. ここで、キースイッチの**▲(UP)**キーを押すと、コードメモリーのチャンネル番号が点滅から点灯に変わるとともに、ページャーコードの先頭桁が点滅を始めますので、**DIALツマミ**をまわして設定しようとするページャーコードの先頭桁の値(数字)を入力します。



4. もう一度キースイッチの**▲(UP)**キーを押すと、ページャーコードの中間桁が点滅を始めますので、上記3. の操作と同じように**DIALツマミ**をまわして、設定しようとするページャーコードの中間桁の値(数字)を入力します。



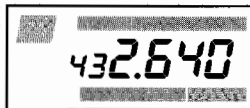
5. 上記4. の操作を繰り返して、ページャーコードの最終桁の値(数字)を入力します。



6. 最終桁の設定が完了しましたら、再度キースイッチの**▲(UP)**キーを押すと、再びコードメモリーのチャンネル番号

が点滅するようになりますので、上記2. ~5. の操作を繰り返して、他のコードメモリーにもページャーコードを設定して行きます。

7. すべてのコードメモリーにページャーコードが設定できましたら、もう一度**P(CODE)**キーを押します。ディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、ページャーコードの設定操作は完了します。



2. 待ち受け操作

不要な通信を一切排除し、ある特定の局や、特定したグループからの呼び出しを受けたときのみ、相手局からの信号を受信することができる操作です。

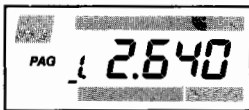
なお、待ち受け操作には、特定局からの呼び出しを電子音で知ることのできる“ページャー動作”と、特定局からの呼び出しを受けたときにそのまま交信状態に移ることのできる“コードスケルチ動作”の2種類の待ち受け方法がありますので、右記の操作を参考に、どちらか希望する待ち受け方法に設定します。

キースイッチのP(CODE)キーを押すごとに、待ち受け方法がつぎのように切り換わって行きます。

ページャー動作

★ディスプレイに“PAG”の表示が点灯し、あらかじめコードメモリーにメモリーしてあるページャーコードのいずれかと同じ組み合わせのページャーコードの信号を受信したときにのみ“PAG”表示が点灯から点滅に変わって電子音を発するとともに、ディスプレイの運用周波数表示部に個別呼び出して呼び出されたときには呼び出してきた局の個別コード、グループ呼び出して呼び出されたときにはそのときに使用したグループコードで表示して、どの局から呼ばれたのかを知らせます。また、ディスプレイの表示は、PTTスイッチを押すまで表示し続けますので、無線機から離れていた場合でも、呼び出しがあったことを知ることができます。

なお、相手局と交信する場合には、ページャー機能を解除してから行ってください。



コードスケルチ動作

★ディスプレイ内に“CODE”の表示が点灯し、▲(UP) / ▼(DOWN)キー操作で指定したコードメモリーにメモリーしてあるページャーコードのいずれかと同じ組み合わせのページャーコードを受信した場合にのみ、相手局の信号を受信することができます。

なお、呼び出されたときに送信操作を行なうと、呼び出してきた局の個別コードを送信の始めに自動的に送信し、相手局と交信することができます。



ベル運用動作

★この動作はページャー機能とは異なる動作で、オプションのトーンスケルチユニット“FTS-17A”が取り付けられているときにのみ動作します。なお、ベル動作中には、ディスプレイに“B”の表示が点灯します。また、トーンスケルチユニットが取り付けられていないときにはこの動作はスキップします。詳しくは28ページの“ベル運用”の項目を参照ください。



ページャー動作 / コードスケルチ動作 / ベル運用動作解除
(ページャー機能“OFF”)

3. 呼び出し操作

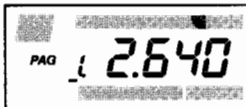
ページャー機能を動作させて待ち受けしている局を呼び出す操作です。

なお、呼び出し操作には、ある特定の1局だけを指定して呼び出すことのできる“個別呼び出し”と、同じグループに属している全ての局を一緒に呼び出すことのできる“グループ呼び出し”の2種類の呼び出し方法があります。

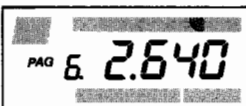
1. 個別呼び出し

ある特定の1局だけを指定して呼び出す操作です。

1. キースイッチのP(CODE)キーを押して、ページャー機能を動作させます。



2. ページャー機能が動作しているときにはキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーでコードメモリーの選択が行えますので(ワンタッチページャー機能)、呼び出したい局の個別コードがメモリーしてあるコードメモリーにあわせれます。



注 呼び出したい局の個別コードがコードメモリーに設定していないときには、29ページの“ページャーコードの設定”を参照して、あらたに設定します。

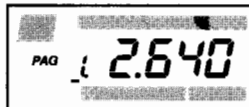
3. もう一度P(CODE)キーを押して、ディスプレイの表示を運用周波数表示に戻します。
4. この状態で送信すると、上記2.の項で設定した相手局の個別コードを送信の初めに自動送信して、ページャー

機能で待ち受けをしている相手局だけを呼び出すことができます。

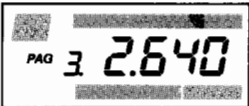
2. グループ呼び出し

同じグループに属しているすべての局を一緒に呼び出す操作です。

1. キースイッチのP(CODE)キーを押して、ページャー機能を動作させます。



2. ページャー機能が動作しているときにはキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーでコードメモリーの選択が行えますので(ワンタッチページャー機能)、呼び出したい局のグループコードがメモリーしてあるコードメモリーにあわせれます。



注 呼び出したい局のグループコードがコードメモリーに設定していないときには、29ページの“ページャーコードの設定”を参照して、あらたに設定します。

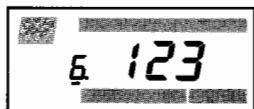
3. もう一度P(CODE)キーを押して、ディスプレイの表示を運用周波数表示に戻します。
4. この状態で送信すると、上記2.の項で設定したグループコードを送信の初めに自動送信して、同じグループコードで待ち受けしているすべての局を一緒に呼び出すことができます。

着呼禁止機能

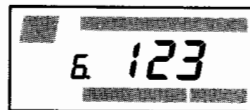
着呼禁止機能とは、ページャー機能を動作させて特定局からの呼び出しを待っているときに、自局とは関係のないグループコードなどのページャーコードでは呼ばれないようにするための機能です。

本機のページャー機能は、呼び出し操作を受けたとき、相手局の発するページャーコードが自局のコードメモリーに設定してあるページャーコードのいずれかと一致すれば、自動的に相手局の信号を受信するため、自局には関係のないグループのグループコードなどを設定してある場合には、そのページャーコードを受信しても相手局の信号が受信できてしまいます。そのような誤動作が起こらないよう、下記の方法で着呼禁止機能を動作させます。

1. まず初めに、キースイッチ**F・Mキー**と**P(CODE)キー**を続けて順に押してページャーコードの設定モードにします。
2. つぎに、**DIALツマミ**をまわすとコードメモリーが順番に切り換わりますので、着呼禁止機能を動作させたいページャーコードが設定してあるコードメモリーにあわせませす。
3. この状態で、キースイッチの**F・Mキー**を押すと、ディスプレイ内のコードメモリーのチャンネル番号表示の下に“**—**”表示が**F・Mキー**は押すたびに点灯、消灯を繰り返し、着呼禁止機能が **解除——動作——解除···**を繰り返します。



(着呼禁止機能“解除”)



(着呼禁止機能“動作”)

着呼禁止機能が動作しているコードメモリーのページャーコードでは、呼び出し操作を受けても相手局の信号は受信できません。

セットモード

セットモードとは、一度設定してしまえばその後変更する機会の少ない機能や動作の選択・設定操作を行う状態のことをいい、この状態のときにキースイッチを操作すると、下表の“セットモード時の各キースイッチの動作説明”に示した、各種機能の選択・設定を行なうことができます。

セットモードへの移行方法

キースイッチのF・MキーとRPT(SET)キーを続けて順に押すと、ディスプレイの運用周波数などの表示が消灯して“SE”の表示のみとなり、セットモードになります。



なお、このセットモードは、約3秒間何の操作も行なわなければ、自動的にセットモードにする前の状態に戻ってしまいますので、ディスプレイに“SE”の表示が点灯している約3秒間の間に下表に示すキー操作を行なって、各種の機能や動作の選択・設定操作を行なってください。

セットモード時の各キースイッチの動作説明

C (H/L) キー	D/MR (SKIP) キー	RPT (SET) キー	▼ (DOWN) キー	▲ (UP) キー
VOX 機能の “ON/OFF” 操作	オートマチックパワーオフ機能の “ON/OFF” 操作	①：シフト幅の設定操作 ②：ARS 機能の “ON/OFF” 操作	キーロック・PTT ロック操作 →キーロック→PTT ロック→キーロック・PTT ロック ←キーロック・PTT ロック解除←	①：呼び出し音の回数変更操作 ②：ポケットベル機能の “ON/OFF” 操作
P (CODE) キー	PTT スイッチ	T (SET) キー	REV (PRI) キー	F・M キー
①：送信タイムアウトの切り換え操作 ②：ワンタッチベージャ機能の“ON/OFF”操作	セットモード解除	①：パワーセーブ機能の“ON/OFF”操作 ②：BUSY インジケータの“ON/OFF”操作	①：ステップ幅の設定操作 ②：スキャンモードの設定操作	—

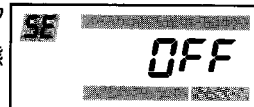
1. オートマチックパワーオフ機能の設定操作

セットモード時のD/MR(SKIP)キー操作

オートマチックパワーオフ機能とは、受信時において、あらかじめ決められた時間（パワーオフタイム）までに送信操作やDIALツマミ、キースイッチ操作を行わなかったときには、CPU以外への電源供給を停止し、電池の消費を少なくする機能です。

なお、パワーオフタイムには、4種類(10分、20分、30分、OFF)あり、その中から1つを選んで設定することができます。

1. セットモード時にキースイッチのD/MR(SKIP)キーを押すと、ディスプレイにオートマチックパワーオフ機能の動作状態を約3秒間表示します。



(オートマチックパワーオフ機能が動作しているときには“□”とパワーオフタイム(10、20または30)、オートマチックパワーオフ機能が動作していないときには“OFF”の表示が点灯します。)

2. ディスプレイにオートマチックパワーオフ機能の動作状態を表示している約3秒間の間にキースイッチのD/MR(SKIP)キーを押すと、オートマチックパワーオフ機能を“ON/OFF”することができます。

また、オートマチックパワーオフ機能を“ON”にしたときには、希望するパワーオフタイム（10分、20分、30分のいずれか）をDIALツマミまたはキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーで設定します。

3. 設定終了後PTTスイッチを押すか、そのまま約3秒間経過すると、自動的にセットモードにする前の状態に戻り、オートマチックパワーオフ機能の設定操作は完了します。

4. オートマチックパワーオフ機能が動作しているときに、上記2. の操作で設定した時間（パワーオフタイム）の約1分前まで送信操作およびDIALツマミ、キースイッチ操作を行わないと、予告のメロディー音を発するとともに“0”の表示が点滅します。さらに、その約1分後にディスプレイに“OFF”の表示が点灯してCPU以外への電源の供給を停止して電池の消耗を最小限に押さえます。（パワーオフ状態）

5. オートマチックパワーオフ機能によるパワーオフ状態は、次の方法で解除できます。

- a. キースイッチのC(H/L)キーを押す。（この場合はパワーオフ状態が解除されるだけで、コールチャンネルへは移行しません。）
- b. 電源スイッチを一度“OFF”にする。

2. シフト幅の設定操作

セットモード時のRPT(SET)キー操作

送信オフセット運用時の受信周波数と送信周波数との周波数差（シフト幅）を設定する操作です。なお、シフト幅は工場出荷時、5 MHzに設定してありますが、50kHzステップで、任意の値に設定することができます。

1. セットモード時にキースイッチのRPT(SET)キーを押すと、ディスプレイに現在設定してあるシフト幅を表示しますので、DIALツマミまたはキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーにより希望のシフト幅を設定します。



2. 設定終了後PTTスイッチを押すか、そのまま約3秒間経過すると、自動的にセットモードにする前の状態に戻り、シフト幅の設定操作は完了します。



シフト幅の変更操作を行なうと、ARS機能のシフト幅も同時に変更されてしまいます。

3. ARS機能の“ON/OFF”操作

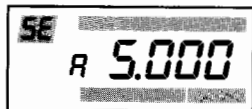
セットモード時のRPT(SET)キー操作

本機は、受信周波数がJARLの制定したレピーター用出力周波数帯の中に入っても、レピーター動作にならないよう、ARS(Automatic Repeater Shift)機能を“OFF”にすることができます。

1. セットモード時にキースイッチのRPT(SET)キーを押すと、ディスプレイに現在設定してあるARS機能の動作状態(“ON”または“OFF”)を約3秒間表示します。
2. ARS機能の動作状態を表示している約3秒間の間にキースイッチのF・Mキーを押すと、ARS機能の動作状態がF・Mキーを押すたびに、
“OFF”→“ON”→“OFF”→“ON”・・・



(ARS機能 “OFF”)



(ARS機能 “ON”)

の動作を繰り返しますので、希望する動作状態になるように設定します。

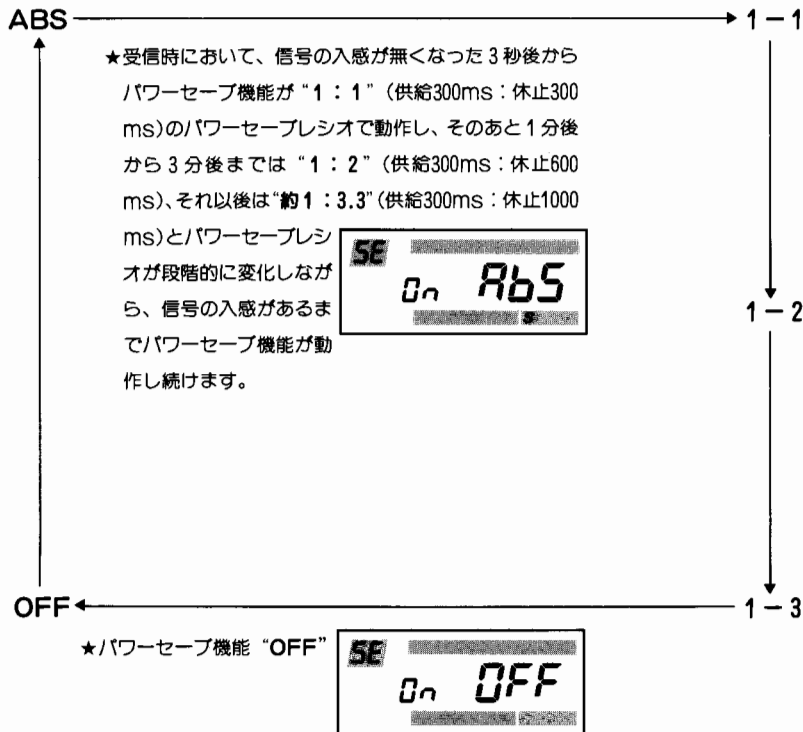
3. 設定終了後PTTスイッチを押すか、そのまま約3秒間経過すると、自動的にセットモードにする前の状態に戻り、ARS機能の“ON/OFF”操作は完了します。

4. パワーセーブ機能の“ON/OFF”操作

セットモード時のT(SET)キー操作

パワーセーブ機能とは、受信時において信号の入感がないときに、CPU以外への電源供給を断続的に行い、電池の消耗を少なくする機能です。なお、電源を供給している時間と休止している時間の比率(パワーセーブレシオ)は5種類ありますので、希望するパワーセーブレシオに設定して運用することができます。

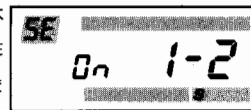
1. セットモード時にキースイッチのT(SET)キーを押すと、ディスプレイに現在設定してあるパワーセーブレシオを約3秒間ディスプレイに表示します。
2. パワーセーブレシオを表示している約3秒間の間にDIALツマミまたはキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーを操作すると、パワーセーブレシオが ◀ ▶



★受信時において、信号の入感が無くなった3秒後からパワーセーブ機能が、パワーセーブレシオ“1：1”（供給300msに対して休止300ms）の割合で動作し、信号の入感があるまでパワーセーブ機能が動作し続けます。



★受信時において、信号の入感が無くなった3秒後からパワーセーブ機能が、パワーセーブレシオ“1：2”（供給300msに対して休止600ms）の割合で動作し、信号の入感があるまでパワーセーブ機能が動作し続けます。



★受信時において、信号の入感が無くなった3秒後からパワーセーブ機能が、パワーセーブレシオ“1：3”（供給300msに対して休止900ms）の割合で動作し、信号の入感があるまでパワーセーブ機能が動作し続けます。



と切り換わりますので、希望するパワーセーブレシオになるように設定します。なお、パワーセーブレシオを“OFF”以外の状態に設定したときには、ディスプレイに“S”の表示が点灯します。

3. 設定終了後PTTスイッチを押すか、そのまま約3秒経過すると、自動的にセットモードにする前の状態に戻り、パワーセーブ機能の“ON/OFF”操作は完了します。

4. パワーセーブ機能が動作しているときには、ディスプレイに“S”の表示が点滅します。
5. パワーセーブ中に信号が入感するとパワーセーブ機能が一時停止してその信号を受信し、信号がなくなると約3秒後に、ふたたび動作を始めます。



1. 信号が入感していなくても、スケルチが開いてノイズが聞こえているときや、送信中およびスキャン操作、ページャー機能が動作中でも、パワーセーブ機能は一時停止します。
2. 本機をパケット通信などのデータ通信に使用するときには、パワーセーブ機能は“OFF”にして運用してください。
パワーセーブ機能が動作中にパケット信号が入感しても、その機能が一時停止するまでに時間が掛り、いわゆる“頭切れ”の現象が生じるからです。

5. BUSYインジケータの“ON/OFF”操作 セットモード時のT(SET)キー操作

本機では、電池の消耗を極力少なくするために、受信時に点灯するBUSYインジケータの動作を“OFF”（信号を受信してもBUSYインジケータは点灯しない）にすることができます。

1. セットモード時にキースイッチのT(SET)キーを押すと、現在設定してあるBUSYインジケータの動作状態を約3秒間ディスプレイに表示します。
2. BUSYインジケータの動作状態を表示している約3秒間にキースイッチのF・Mキーを押すと、BUSYインジケータの動作が

OFF → ON → OFF・・・



(BUSYインジケータ“OFF”) (BUSYインジケータ“ON”)

と交互に切り換わりますので、希望する動作状態に設定します。

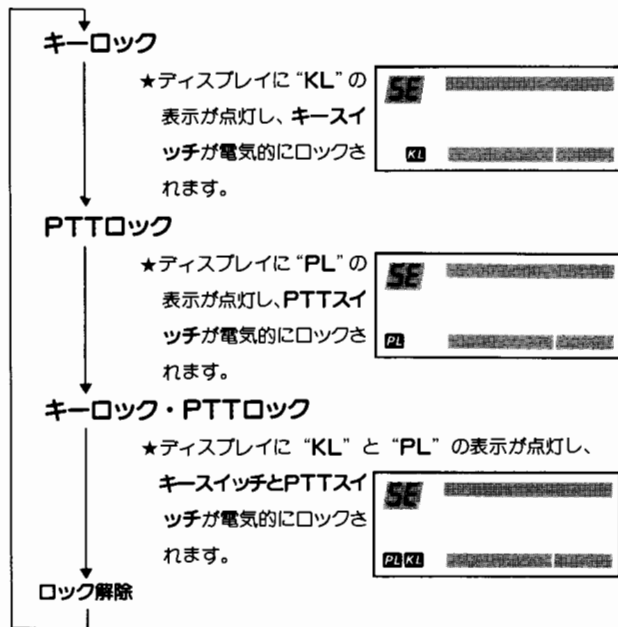
3. 設定終了後PTTスイッチを押すか、そのまま約3秒経過すると、自動的にセットモードにする前の状態に戻り、BUSYインジケータの“ON/OFF”操作は完了します。

6. ロック操作

セットモード時の▼(DOWN)キー操作

本機には、誤って周波数などが変化しないように、キースイッチやPTTスイッチなどを電氣的にロックすることができます。

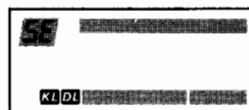
1. セットモード時にキースイッチの▼(DOWN)キーを押すと、現在設定してあるロック状態を約3秒間ディスプレイに表示します。
2. ロック状態を表示している約3秒間の間にキースイッチの▼(DOWN)キーを押すと、ロック状態が



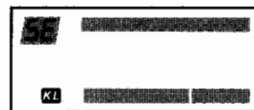
と切り換わりますので、希望するロック状態に設定します。

また、キーロック状態に設定したとき（ディスプレイに“KL”の表示が点灯しているとき）には、キースイッチの▲(UP)キーにより、DIALツマミも同時にロック状態にするか？を決めます。（DIALツマミをロック状態にすると、ディスプレイに“DL”に表示が点灯します。）

▲(UP)キーは押すたびに、ディスプレイに“DL”の表示が点灯、消灯を繰り返し、DIALツマミのロック状態がON→“OFF”→“ON”→“OFF”・・・



(DIALツマミロック“ON”)



(DIALツマミロック“OFF”)

の動作を繰り返します。

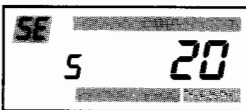
3. 設定終了後PTTスイッチを押すか、そのまま約3秒間経過すると、自動的にセットモードにする前の状態に戻り、ロック操作は完了します。

7. ステップ幅の設定操作

セットモード時のREV(PRI)キー操作

ダイヤルモード時における、DIALツマミおよびキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーの1ステップの周波数変化量を設定する操作です。なお、ステップ幅は工場出荷時、20kHzステップに設定してありますが、5/10/12.5/15/20/25kHzステップのうちから1つを選択することができます。

1. セットモード時にキースイッチのREV(PRI)キーを押すと、ディスプレイに現在設定してあるステップ幅を表示しますので、DIALツマミまたはキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーにより希望のステップ幅を設定します。
2. 設定終了後PTTスイッチを押すか、そのまま約3秒間経過すると、自動的にセットモードにする前の状態にもどり、ステップ幅の設定操作は完了します。



●ポーズスキャン

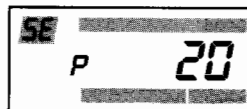
連続スキャン中に信号が入感するとスキャンが自動停止し、信号がなくなるまでその周波数またはチャンネルを継続して受信し、信号が無くなると約2秒後にスキャンを開始します。

8. スキャンモードの設定操作

セットモード時のREV(PRI)キー操作

スキャンモードとは、スキャンコントロール時において、スキャンが停止したときにその後ふたたびスキャンの再開条件を示すもので、“5秒スキャン”と“ポーズスキャン”の2種類があります。

1. セットモード時にREV(PRI)キーを押すと、ディスプレイに現在設定してあるスキャンモードを約3秒間表示します。
2. スキャンモードを表示している約3秒間の間にキースイッチのF・Mキーを押すと、スキャンモードがF・Mキーを押すたびに“ポーズスキャン”→“5秒スキャン”→・・・



(ポーズスキャン)



(5秒スキャン)

- と交互に切り換わりますので、希望するスキャンモードに設定します。
3. 設定終了後PTTスイッチを押すか、そのまま約3秒間経過すると、自動的にセットモードにする前の状態に戻り、スキャンモードの設定操作は完了します。

●5秒スキャン

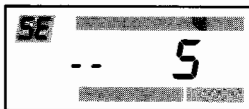
連続スキャン中に信号が入感するとスキャンが約5秒間一時停止し、その後ふたたびスキャンを開始します。ただし、自動停止中でも、信号が無くなると約2秒後にスキャンを開始します。

9. 呼び出し音の回数変更操作

セットモード時の▲(UP)キー操作

この操作は、ベル運用およびページャー機能動作時の、呼び出し音の鳴る回数を設定する操作です。なお、呼び出し音の鳴る回数は、1回、5回、0回（呼び出し音“OFF”）の3種類があります。

1. セットモード時に▲(UP)キーを押すと、ディスプレイに現在設定してある呼び出し音の鳴る回数を約3秒間表示します。



2. 呼び出し音の鳴る回数を表示している約3秒間の間にDIALツマミまたはキースイッチの▲(UP)／▼(DOWN)キーを操作して希望する回数になるように設定します。

注 呼び出し音の鳴る回数を1回または5回に設定すると、ディスプレイに“☺”の表示が点灯します。

3. 設定終了後PTTスイッチを押すか、そのまま約3秒間経過すると、自動的にセットモードにする前の状態に戻り、呼び出し音の回数変更操作は完了します。

10. ポケットベル機能の“ON/OFF”操作

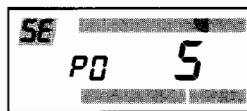
セットモード時の▲(UP)キー操作

この操作は、ページャー機能を動作させてページャー動作で待ち受け操作を行っているときの、呼び出し方法を選択する操作です。

ポケットベル機能が動作しているときに呼び出しを受けると、スピーカーから電子音のみを発して呼び出しがあったことを知らせますが、ポケットベル機能が“OFF”のときに呼び出しを受けると、スピーカーから電子音を発するとともに相手局の音声も同時に出力して、呼び出しがあったことを知らせます。

1. セットモード時にキースイッチの▲(UP)キーを押すと、ディスプレイに現在設定してあるポケットベル機能の動作状態（“ON”または“OFF”）が約3秒間表示されます。
2. ポケットベル機能の動作状態を表示している約3秒間の間にF・Mキーを押すと、ポケットベル機能の動作状態がF・Mキーを押すたびに

ON → OFF → ON → OFF . . .



（ポケットベル機能“ON”）



（ポケットベル機能“OFF”）

の動作を繰り返しますので、希望する動作状態に設定します。

3. 設定終了後PTTスイッチを押すか、そのまま約3秒間経過すると、自動的にセットモードにする前の状態に戻り、ポケットベル機能の“ON/OFF”操作は完了します。

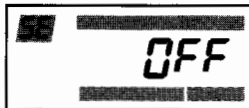
11. VOX機能の“ON/OFF”操作

セットモード時のC(H/L)キー操作

本機には、自分の音声で送受信を切り換えることができるVOX回路を内蔵していますので、オプションのヘッドセット“YH-2”を使用すれば、交信中でも両手が自由に使える“ハンズフリーオペレーション”が行えます。

1. セットモード時にキースイッチのC(H/L)キーを押すと、ディスプレイに現在設定してあるVOX回路の動作状態(“ON”または“OFF”)を約3秒間表示します。
2. VOX回路の動作状態を表示している約3秒間の間にC(H/L)キーを押すと、VOX回路の動作状態がC(H/L)キーを押すたびに

ON → OFF → ON → OFF



の動作を繰り返しますので、希望する動作状態になるように、VOX回路の動作状態を設定します。

3. 設定終了後PTTスイッチを押すか、そのまま約3秒間経過すると、自動的にセットモードにする前の設定状態に戻り、VOX機能の“ON/OFF”操作は完了します。
4. VOX回路が動作しているときにヘッドセットのマイクロホンに向かって送話すると、自動的に送信状態になり、送話をやめると受信状態に戻ります。

注

1. VOX回路が“ON”になっているときには、ディスプレイに“V”の表示が点灯します。
2. VOX機能を“ON”にすると、ページャー機能は自動的に解除されてしまいます。
3. 内蔵のマイクロホンやオプションのスピーカーマイクロホン“MH-12A2B”などでは、VOX運用は行えません。また、これらのマイクロホンで運用するときには、必ずVOX回路を“OFF”にしてください。

12. 送信ディレータイムの切り換え操作

セットモード時のP(CODE)キー操作

この操作は、ページャー機能動作時に、送信の初めに自動送信されるページャーコードの送信タイミング（PTTスイッチ操作後、何秒でページャーコードを送出するか）を切り替えるものです。（工場出荷時には、送信ディレータイムは450msに設定してあります。）

1. セットモード時にキースイッチのP(CODE)キーを押すと、ディスプレイに現在設定してある送信ディレータイムが約3秒間表示されます。
2. 送信ディレータイムを表示している約3秒間の間にDIALツマミまたはキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーを操作すると、送信ディレータイムが

750ms → 450ms → 750ms → 450ms



と交互に切り換わりますので、どちらか希望する送信ディレータイムに設定します。

3. 設定終了後PTTスイッチを押すか、そのまま約3秒間経過すると、自動的にセットモードにする前の状態に戻り、送信ディレータイムの切り換え操作は完了です。

注 レピーター局を通してページャー機能を動作させるときには、誤動作防止のために送信ディレータイムを750msに設定してください。

13. ワンタッチページャー機能の“ON/OFF”操作

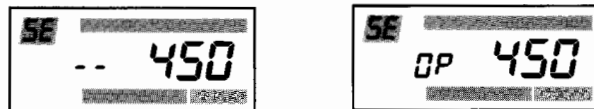
セットモード時のP(CODE)キー操作

ワンタッチページャー機能とは、ページャー機能動作時のコードメモリーの選択を簡単な操作で行なえるようにする機能です。（工場出荷時には、ワンタッチページャー機能は“ON”の状態になっています。）

ワンタッチページャー機能が動作しているときは、ディスプレイの100MHzの桁にコードメモリーのチャンネルナンバーを表示し、運用周波数またはメモリーチャンネルの変更はDIALツマミ、コードメモリーの選択はキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーで行なえるようになります。

なお、ワンタッチページャー機能が“OFF”のときにコードメモリーの選択を行なう場合には、キー操作により一度ページャーコードの設定状態（29ページ参照）にしてからDIALツマミまたはキースイッチの▲(UP)/▼(DOWN)キーで選択しなければなりません。

1. セットモード時にキースイッチのP(CODE)キーを押すと、ディスプレイに現在設定してあるワンタッチページャー機能の動作状態（“ON”または“OFF”）が約3秒間表示されます。



（ワンタッチページャー機能“OFF”） （ワンタッチページャー機能“ON”）

2. ワンタッチページャー機能の動作状態を表示している約3秒間の間に**F・Mキー**を押すと、ワンタッチページャー機能の動作状態が**F・Mキー**を押すたびに

OFF → **ON** → **OFF** → **ON** . . .

の動作を繰り返しますので、希望する動作状態に設定します

3. 設定終了後**PTTスイッチ**を押すか、そのまま約3秒間経過すると、自動的にセットモードにする前の状態に戻り、ワンタッチページャー機能の**“ON/OFF”**操作は完了します。

ビープ機能

本機のキースイッチは7ページの表に示すように、キー操作時に**“ドレミ”**の音程でビープ音を発しますので、音によるキー操作の確認が行なえます。また、各種機能の動作・停止時にもビープ音を発します。

なお、このビープ音は下記の操作を行なうことにより、“ON/OFF”することができます。

1. キースイッチの**F・Mキー**と**T (TSET)** キーを続けて順に押すと、ビープ音が**“ON”**のときにはディスプレイに**“b”**の表示が点灯します。
2. この状態でもう一度**F・Mキー**を押すと、“b”の表示が消えてビープ音は**“OFF”**になります。
3. **F・Mキー**は押すたびに、“b”の表示が消灯、点灯を繰り返し、ビープ音が

OFF → **ON** → **OFF** → **ON** . . .



(ビープ音 “ON”)



(ビープ音 “OFF”)

の動作を繰り返します。

4. もう一度**T (TSET)** キーを押すと運用周波数表示に戻り、ビープ音の**“ON/OFF”**操作は完了します。

バックアップ機能

本機には、メモリーチャンネルの内容や電源スイッチを切る前に設定してあった運用状態を記憶する、バックアップ機能を備えています。

本機はバックアップ機能を動作させるために、バックアップ用電池を組み込んでいます。バックアップ用電池には高性能リチウム電池の採用により、電池ケース（バック）を外した場合でもメモリー等CPUの内容を、長期間記憶し続けることができます。

なお、メモリーチャンネル内に書き込まれている全てのデータを消去したいときには、次の手順で本機を初期状態に戻してください。

1. **VOLツマミ**を反時計（左）方向にまわし切って、電源を“OFF”にします。
2. キースイッチの**T(TSET)キー**と**REV(PRI)キー**を押しながら**VOLツマミ**を時計（右）方向にまわして、電源を“ON”にします。

以上で本機は初期状態に戻ります。

バックアップ機能が動作しなくなり、バックアップ用電池（リチウム電池）の消耗と恐れられましたら、最寄りの当社営業所／サービスにお持ちください。有償で交換させていただきます。

オプション取り付け時の注意事項

オプションを取り付ける際には、必ず電源スイッチを切るとともに、電池ケースや電池パック、外部電源なども本体から外した状態で行ってください。

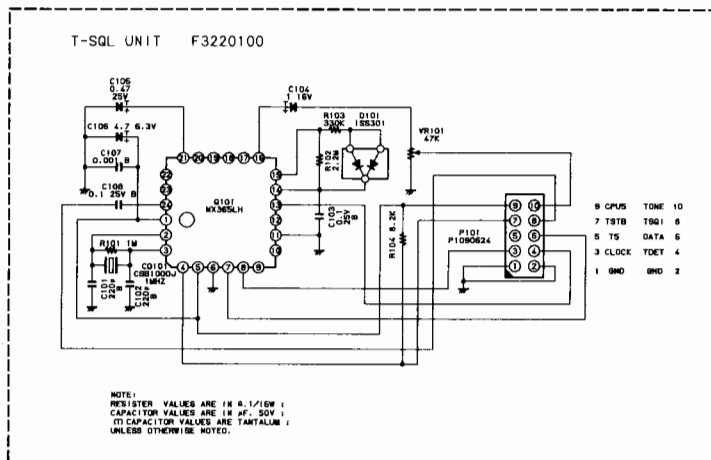
また、本機は超小型にまとめるため、内部は超小型部品を使用した高密度な部品配置になっていますので、分解・組み

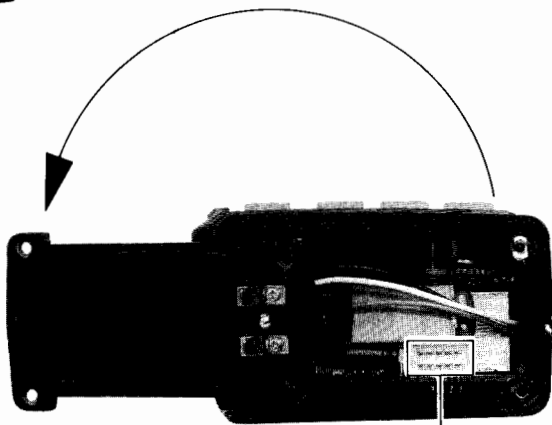
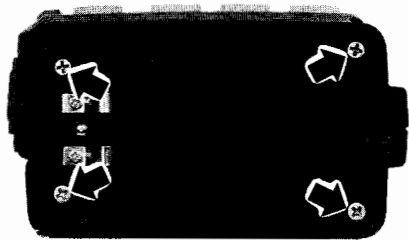
立てに際して無理な力が加わったり、線材等をはさみ込まないように注意するとともに、金属片などで回路素子等をショートさせないように、十分注意をして作業を行なってください。さらに、静電気等により半導体が破損する恐れがありますので、必要箇所以外には不用意に手を触れないでください。

トーンスケルチユニット“FTS-17A”の取付方法

1. 本体側面のUNLOCKレバーを▶印の方向に押し上げながら電池ケースまたはNi-Cd電池パックを本体から外します。
2. ビス4本を外して、ケース底面を取り外します。
3. 本体内部に、何も接続していない10ピンの白いコネクタ（J1004）がありますので、そこにFTS-17Aを接続します。
4. 工程2. で外したケース底面を本体に元通りに取り付けて、FTS-17Aの取り付けは完了です。

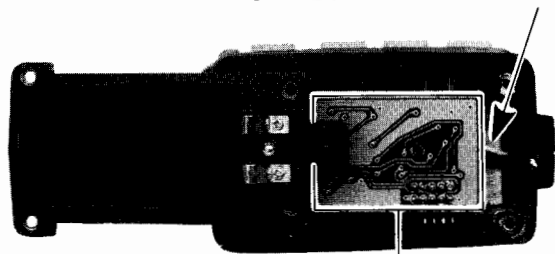
注 ケース底面を本体に取り付けるときには、ケース底面に配線されている3本の電源ケーブルを、ケース底面と本体との間にはさみ込まないように、ご注意ください。





J1004

3本の電源ケーブルは、本体とFTS-17Aの間を通す



FTS-17A

修理を依頼する前に、ちょっとお確かめください。

■電源が入らない！

- 乾電池は正しく電池ケースに挿入してありますか？
- 乾電池は指定通りに、プラス（+） マイナス（-）の極性を間違えず、正しく電池ケースに挿入してください。（9ページ参照）
- 外部電源の接続は間違っていないですか？
- 外部電源を使用するときには、必ずオプションの外部DCケーブル“E-DC-6”またはノイズフィルター付き外部DCケーブル“E-DC-5”を使用し、ケーブルの赤／黒線を電源のプラス（+）、黒線をマイナス（-）に接続してください。（3ページ参照）
- 電池または電源の電圧は正常ですか？
- 本機の動作電圧範囲は5.5～16Vです。この範囲内の電圧でご利用ください。（2ページ参照）

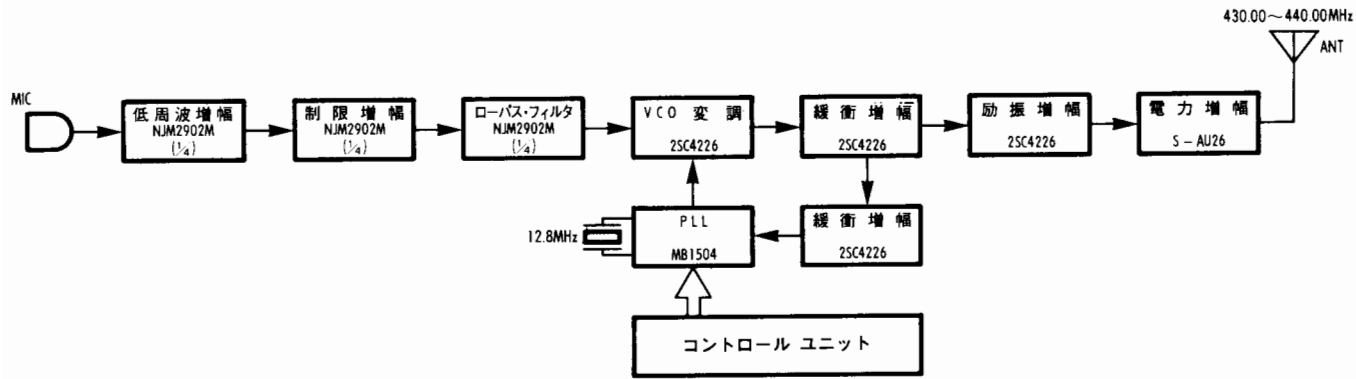
■音が出ない！！

- VOLツマミを反時計方向にまわしすぎていませんか？（10ページ参照）
- SQLツマミを時計方向にまわしすぎていませんか？（3ページ参照）
- トーンスケルチ運用またはベル運用になっていませんか？
- トーンスケルチ運用またベル運用中は、自局の設定したトーン信号と同じ周波数のトーン信号を伴った信号を受信するまでは、音は出ません。（26ページ参照）
- ページャー機能が動作状態になっていませんか？
- ページャー機能が動作しているときには、自局のコードメモリーにメモリーしてある、いずれか1つのページャーコードと同じ組み合わせのページャーコードを受信するまでは、音は出ません。（29ページ参照）
- 外部スピーカーの接続は間違っていないですか？（4ページ参照）
- 電池または電源の電圧は正常ですか？
- 本機の動作電圧範囲は5.5～16Vです。この範囲内の電圧でご利用ください。（2ページ参照）

■電波が出ない!!!

- PTTスイッチは確実に押していますか? (13ページ参照)
- PTTロック状態になっていませんか?
- ディスプレイに“PL”の表示が点灯しているときにはPTTスイッチがロックされている状態です。PTTロックを解除してください。(39ページ参照)
- アンテナは確実に接続してありますか?
- アンテナは必ず、付属のホイップアンテナ“YHA-49”またはインピーダンス50Ωの430MHz帯用アンテナを使用してください。(2ページ参照)
- 送信オフセット運用で、送信時にオフバンドになっていませんか?
- 送信時にオフバンドになると、ディスプレイに“Err”の表示が出て、送信状態になりません。(25ページ参照)
- 電池または電源の電圧は正常ですか?
- 本機の動作電圧範囲は5.5~16Vです。この範囲内の電圧でご使用ください。また送信時に、電圧降下を起こすような電源では、本機の性能を十分に発揮することはできません。(2ページ参照)

送信機系統図（JARL 保証認定で免許申請の場合には登録番号 A069S あるいは型名 FT-74 と記入し送信機系統図を省略できます。）



共通定格

送受信周波数範囲：430.000~440.000MHz

送受信周波数：上記範囲内で

5/10/12.5/15/20/25kHzステップ

電波型式：F3 (FM)

使用温度範囲：-20°C~+60°C

周波数偏差：±5ppm以内（-10°C~+50°C）

電源電圧範囲：直流5.5~16.0V、マイナス接地

消費電流：受信時 150mA

受信スケルチ時 46mA

受信パワーセーブ時 20mA

（平均消費電流）

オートパワーオフ時 6mA

送信5W出力時 1.6A

ケース寸法：幅55(64)×高さ116(130)×奥行33(40)(mm)

（ ）内は突起物を含む最大寸法

（FBA-12装着時、

アンテナおよび突起物を含まず）

本体重量：360g（FBA-12、単三型乾電池6本、

付属アンテナを含む）

受信部

受信方式：ダブルコンバージョン

スーパーヘテロダイナ

中間周波数：45.1MHz/455kHz

受信感度：0.158 μ V（-16dB）以下 @SINAD 12dB

選択度：12kHz以上/-6dB，30kHz以下/-60dB

低周波出力：500mW以上（8 Ω THD5%，DC12V時）低周波出力インピーダンス：4~16 Ω （標準8 Ω ）

送信部

定格終段入力：18W（DC13.8V時）

変調方式：リアクタンス変調

最大周波数偏移：±5kHz

占有周波数帯域：16kHz以内

不要輻射強度：-60dB以下

アンテナ出力インピーダンス：50 Ω 不平衡マイクロホンインピーダンス：2k Ω

（測定法はJIAAで定めた測定法による）

★デザイン、定格および回路定数は、改善のため予告なく変更する場合があります。

★使用半導体等は、同等以上の性能を持つ他の物を使用することがあります。

このセットについて、または他の当社製品についてのお問い合わせは、お近くの当社営業所／サービス宛にお願い致します。

またその際には、必ずセットの製造番号（本体背面に貼ってある銘板および保証書に記入してあります）を併せてお知らせください。

なお、お手紙をいただくときには、お客様のご住所・ご氏名は忘れずにお書きください。



八重洲無線株式会社

営業部 〒146 東京都大田区下丸子1-20-2

札幌営業所／サービス	〒003	札幌市白石区菊水6条1-1-33	石川ビル	☎ 011-823-1161
仙台営業所／サービス	〒983	仙台市若林区大和町5-6-17		☎ 022-235-5678
関東営業所／サービス	〒332	埼玉県川口市弥平1-5-9		☎ 0482-22-0651
秋葉原営業所／サービス	〒101	東京都千代田区神田岩本町1番地	崖岸ビル	☎ 03-3255-0649
名古屋営業所／サービス	〒457	名古屋市南区戸部町2-34		☎ 052-811-4949
大阪営業所／サービス	〒542	大阪市中央区谷町9-1-22	NK谷町ビル	☎ 06-763-7151
広島営業所／サービス	〒733	広島市西区己斐本町2-12-30	SKビル	☎ 082-273-2332
福岡営業所／サービス	〒812	福岡市博多区上牟田1-16-26	第2山本ビル	☎ 092-482-4082
サービスセンター	〒332	埼玉県川口市弥平1-5-9		☎ 0482-22-0651
須賀川サービスステーション	〒962	福島県須賀川市森宿字ウツロ田43		☎ 0248-76-1161